

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100347
法人名	有限会社 くまた
事業所名	グループホーム くまた
所在地	愛媛県 松山市 土手内 52-1
自己評価作成日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員全員が笑顔で挨拶を実践している                  月一回の他施設合同の介護教室(勉強会)に全員参加し、知識の向上をはかっている                  地域行事への参加(祭り・運動会等)や夕涼み会の開催をすることによって地域との交流をはかっている                  ゴミステーションの清掃等近隣地域に貢献している。                  職員同士の親睦を深め、食事会等も積極的に実施し離職者も少ない</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●今年、事業所で看取った利用者の方は、豆腐やかぼちゃスープ等、できるだけ口から食べていただけるよう支援された。ご家族も、週に2～3回食事介助に来られて、職員と話し合いながら支援された。ご家族は、ご本人が安楽な体位がとれるよう、「当て枕」を作ってください。最期は、ご家族がご本人の手をとって見送られた。事業所では現在も、終末期を過ごされている利用者がおられる。「きれいでいたい」という思いを持っておられる利用者には、普段はパジャマで過ごされるが、行事ごとの際には、お気に入りの洋服に着替えられるよう支援されたり、定期的にかットする等、ご本人の思いを大切にされた支援に取り組まれている。                  ●地域にある特別養護老人ホームで毎月行われる勉強会に、職員も参加させてもらっており、介護技術や看取り支援について学んでおられる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 くまた

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 久萬田 真一

評価完了日 平成24年 10月 15日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員は地域との関係をつなげ、その人らしく暮らせるような理念を共有し、日々ケアに取り入れている。	
			(外部評価) 事業所では、開設以来「真心」と理念を掲げておられ、代表者は、職員採用時に「まごころを持って利用者に接することが一番大事」であることを話しておられる。又、運営方針には、「家庭的な明るい環境作りを大切にすること」等を挙げておられ、職員は、「明るい笑顔」で利用者に接することに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の会合(区長会、サポート大町等)や地域のイベント(大祭、市民運動会、防災訓練等)に積極的に参加し、近隣住民と十分話し合う機会をもっている。 ミカンの販売をすることで地域の方に目を向けて貰っている年末に近所の交番にみかんを持参し表敬訪問を行うことが恒例となっている。	
			(外部評価) 事業所のある地域は、法人代表者の地元でもあり、地域の方達とのネットワークも厚く、地域の方達とともに活動をすすめておられる。毎年恒例となっている事業所主催の「夕涼み会」は地域の方達も楽しみにしておられ、近所の電気店の方が提灯の飾り付けをしてくださったり、地域の高校のJRC(青少年赤十字)部の生徒達が焼きそばやかき氷等、バザーの手伝いをしてくれたり、又、利用者ご家族、職員と一緒に作ったおはぎをパックに詰めて販売された。地域の幼稚園の運動会の案内をいただき、見学に行かれた際には、テントの下には利用者用の椅子を用意してくださっていた。11月には、利用者が園児と一緒に事業所の畑で芋掘りを楽しまれる予定になっている。今年初めて「メイクセラピー」のボランティアの方が来てくださり、利用者は、お化粧をしてもらってたいへん喜ばれたようで、今後も定期的に来ていただくようになったようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域のサロンに出かけていき、認知症の勉強会を開催し、ホームでの日々の生活をプロジェクターを用いて紹介したり認知症に対する理解や支援の方法を説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議にて自己評価、外部評価の結果やイベントの結果等を報告。区長さんや民生委員さんと話し合い、問題点について意見交換を図り、サービス向上に活かしている。家族の方の参加が増えた</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員や区長、老人クラブ会長、ご家族、利用者も参加されている。会議では、行事の報告や予定を知らせた後、地域の方達の世間話から話題も広がるようだ。今年5月の会議時には、区長の方から、「予定を確保できるように、会議の開催日を決めておいてほしい」と、要望があり、「奇数月の25日に会議を開催」することを決められた。ご家族には、ひとりずつ順番に案内して会議に参加していただいている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎月一回 北条調整委員会が開催される。勉強会では事業所ごとに議題を決めて持ち回りで発表する。包括支援センターとも密に連絡をとっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方は、「介護報酬改定について」説明してくださったり、評価実施前の会議時には、「サービス評価の意義・目的」や「評価結果をインターネットで公開することで利用希望者の事業所選別に活用されている」ことを説明してくださった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の研修会に参加し、職員会で拘束についての職員の共通認識をはかり、日々積極的に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、1階ユニットの利用者が、おひとりで階段を上がり、2階ユニットに来られたり、2階ユニットの利用者が、おひとりで階段の踊り場へ出て、窓から外を眺めたり、手すりを持って運動される等、利用者は事業所内を自由に過ごされていた。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  管理者と職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所で虐待がみすごされることがないように注意を払い、防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  管理者は成年後見制度の研修に参加し、職員会等で報告している。 必要と思われるご家族への助言を行っている。 職員も順番で研修に参加している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入居時に家族、利用者を交えて説明している。 医療連携体制等も同意を得るようにしている。 疑問点等随時詳しく説明し、了解を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  日頃から自由に話せるような雰囲気作りを心がけ、家族の意見、要望をミーティングで話し合い反映させている。 また、運営推進会に参加していただき意見交換をはかっている。	ご家族が言うことをためらう心情を察して、事業所でも意見や要望・提案等を引き出せるような働きかけの工夫を重ねていかれてほしい。又、ご家族は、利用者とともに支えるケアパートナーでもあり、時には、実際に職員とケアにかかわるような場面を作って、より具体的にケアサービスを知ってもらえるよう、取り組まれてはどうだろうか。
			(外部評価)  季節毎に発行されている事業所便り「まごごろ」は、行事時の利用者の表情がよくわかるよう、写真を多く載せてコメントを付けておられ、ご家族に楽しく見てもらえるよう工夫されている。年に1回、9月の敬老会時には、「家族会」を開催されており、14名のご家族が参加された。ビデオで、利用者の日常や行事時の様子等を見ていただいた。ご家族のみで話し合う時間も作っておられるが、あまりお話が出ず、短時間で終了となるようだ。家族会に際して、事前にアンケートを取っておられ、ご家族からは感謝の言葉を多くいただいたようだ。管理者は、アンケートからも、「見てもらっているという気持ちから、ご家族は意見が書けないのではないか」と感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃からコミュニケーションをとり、意見を言いやすい雰囲気である。 必要に応じ、全体、個別に意見を聞き対応している。	
			(外部評価) 法人代表者も勤務のシフトに入り、日々、職員と一緒にケアに取り組みされており、職員からの意見や提案を直接聞いておられる。又、職員もその時々、代表者に意見や提案を伝えておられる。地域にある特別養護老人ホームで毎月行われる勉強会に、職員も参加させてもらっており、介護技術や看取り支援について学んでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格試験に向けた支援を行っている 運営者自身が業務につき職員と共に向上心を持てるよう助言し、職能評価を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じ全職員が受講できるよう積極的に推進している。 職員会で研修報告をしていただき、全職員で情報を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流のある近くの特養で月一回の勉強会を行っている。 他のグループホームとの相互研修にも参加。ケアの向上に努めている。 市の連絡会に参加し情報交換を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談にて生活状態を把握し、本人の日々の関わりの中で生活習慣や要望を聞き出し不安の軽減に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安や要望を理解し受け止め、どのような対応ができるかよく話し合うよう努めている。 随時電話連絡をとって迅速な対応につとめている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスにつなげていけるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いに寄り添い、根本にある苦しみや不安、喜びなどを知ることに努め利用者と共に支えあえる関係を築きながら笑顔あふれる生活が送れるよう話し合っている。 共に生活をしている意識を高めるため積極的にお手伝いをお願いしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いに寄り添いながら、本人の日々の暮らしぶりの情報共有に努め、本人を共に支えていけるよう話し合っている。 面会時に食事介助等をしてくださる家族さんもおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と共に外出する機会をつくっている。 家族や知人が自由に来訪しており、本人が大切にしてきた人達との関係が継続できるよう支援に努めている。 (外部評価) 事業所の近くに住む利用者の友人がシルバーカーを押して時々来られ、居室で利用者とおしゃべりをして帰られる。職員のご実家までドライブして「かまど」で蒸した赤飯をごちそうになったり、隣町まで実演販売のじゃこ天を買いに出かける等して、人とふれ合っておられ、利用者は、入居後に顔馴染みになった方も多くいる。ドライブの際に、利用者のご自宅に立ち寄り、家や庭の様子を写真に撮って居室に掲示された。利用者が懐かしんで喜ばれたことから、事業所では、今後、利用者やご家族と相談しながら、利用者全員試みていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居年数が長く、利用者同士の自然なつながりが築かれている。 職員は利用者同士の関係を把握し、共に楽しい時間を過ごすことができるように努めている。 利用者さんどうして介護の連鎖ができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してからの継続的な関わりはほとんどないが利用中に培った関係性を大切にしながら必要とする利用者や家族には継続的なフォローができる体制はできている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者ひとりひとりのコミュニケーションを大切に、日々のかかわりの中で表情や言葉から思いや意思を測ったり確認するよう努めている。 積極的に思いや要望を伝えてくださる利用者さんが増えてきている。 (外部評価) 入居時に、これまでの生活歴や趣味等をご本人やご家族にお聞きして「アセスメントシート」を作成されている。職員の夜勤時には、利用者から「寂しくて眠れない」等、思いを話してくださることも多く、職員は、「1対1でゆっくり話を聞いて」思いや意向の把握に努めておられる。管理者は、利用者の思いや意向等をよく知っておられるが、職員の手数のこともあって、支援につなげていくことが難しいと話しておられた。	職員やご家族と情報を共有して、利用者一人ひとりが「その人らしい暮らしを続ける」ためにチームで支えていかれてほしい。今後さらに、利用者個々から得た情報を介護計画につなげていくような取り組みが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の言動や家族や知人の面会時などに少しずつ聞き取り把握に努めている。 笑顔の写真を掲示することによりきっかけを作り家族との会話もふえてきている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間チェック表を活用して、一人ひとりの生活リズムを把握し心身の変化に気づき、状況に応じた関わりが持てるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ユニット会にて意見交換やモニタリングを行っている。家族に介護計画や介護記録を見てもらい意見交換をしている</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者個々の担当職員が毎月モニタリングを行い、見直しは、3ヶ月毎に行われている。ご家族が事業所に来られる時に希望を聞き取っておられるが、ご家族は事業所を信頼して「お任せします」と言われる方がほとんどのようだ。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のチェック表を作成し、心身の状況や暮らしの様子を記録し、日々のケアや介護計画に活かしている。申し送りをを行い情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族や本人の要望に応じて柔軟に対応している。利用者の心身の状態変化に応じ医療機関への受診や入院回避、早期退院の支援に努める。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会にて地域包括支援センターや民生委員、地域の方と話す機会を設けている。ボランティアの方にも積極的に働きかけ、交流している。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診、往診は本人や家族の希望に応じている。必要があれば受診結果を連絡、情報を共有し、理解を得てから適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 入居以前から診てもらっている医療機関に、続けて診てもらえるよう支援されている。受診時には、看護師資格を有する職員が同行されており、検査の必要がある場合や、状態変化がみられる場合は、ご家族に報告しておられる。特に変わりがなければ、ご家族の来訪時に報告されている。協力医療機関である歯科が年2回ほど口腔チェックに来てくださり、治療の必要な方があれば、訪問診療で治療して下さるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師を職員として配置し、常に相談できる体制にあり、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。不在時は介護記録をもとに医療機関との連携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には本人情報を提供し、頻繁に御見舞いに行き、安心して治療できるよう心がけている。また、病院関係者や家族とも連携を密にし、速やかな退院支援に結び付けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの研修に基づき、本人や家族の意向を踏まえ、家族・医師・看護師・介護職員が連携をはかり、看取りに取り組んでいる。	
			(外部評価) 今年、事業所で看取った利用者の方は、豆腐やかぼちゃスープ等、できるだけ口から食べていただけるよう支援された。ご家族も、週に2~3回食事介助に来られて、職員と話し合いながら支援された。ご家族は、ご本人が安楽な体位がとれるよう、「当て枕」を作ってくださった。最期は、ご家族がご本人の手をとって見送られた。事業所では現在も、終末期を過ごされている利用者がおられる。「きれいでいたい」という思いを持っておられる利用者には、普段はパジャマで過ごされるが、行事ごとの際には、お気に入りの洋服に着替えられるよう支援されたり、定期的にカットする等、ご本人の思いを大切にされた支援に取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命、応急手当等の勉強会に参加。マニュアルを作成し、職員全員が素早い対応ができるようにしている。本年度も看取り事例あり。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災士の資格取得 消防、分団員、区民らも参加で消防訓練を行う。地域の町内会の協力も得ている。 災害時の地域・職員・家族の連絡網を作成	
			(外部評価) 今春、地域では、地震による津波警報が発令されたことを想定した避難訓練が実施され、事業所も参加された。当日は、9名ほどの利用者が職員と一緒に避難場所まで避難された。訓練を行なってみて、「避難場所が遠かった」ことから、その後、近くの高校を避難場所にしていただけるようお願いに行かれ、快く承諾していただいた。事業所では、11月に消防署に協力いただき、火災想定での避難訓練を実施する予定になっている。法人代表者のご自宅が事業所に隣接されており、もしもの時にはすぐに駆け付けられる。又、近所の消防団員の方やご家族が駆け付けてくれるようになってきている。今後も、利用者の状態や時間帯、いろいろ災害の場面を想定して、避難訓練を繰り返し実施していかれてほしい。又、「避難経路は利用者等が通りやすくなっているか」時々点検されてはどうか。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ユニット会時に個々のかかわり方を検討し、日々のかかわりの中でも利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めている。	
			(外部評価) ご本人・ご家族の希望で、職員は、利用者を「〇〇ちゃん」と呼ばれることも多いようだ。苗字で「〇〇さん」とお呼びして返答の無い方も「〇〇ちゃん」とお呼びするとお返事があるようだ。 法人代表者は、「職員が利用者に少し馴れ合いになっているかもしれない」と感じておられる。運営方針等にも照らし合わせて、利用者の立場に立ち、日々のかかわり方について点検されたり、具体的に話し合うような機会を作ってはどうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの力に応じ利用者自身が決定できるよう声かけの仕方や関わりを工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活リズムを大切に、可能な限り個別支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 基本的には本人の意思に任せているが決定困難な場合には職員が共に考えている。 行事の際等、女性には職員が化粧を施すこともある。 理容は月一回ボランティアの方が来るのを楽しみにしている メイクセラピーの実施	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえから片付けまで利用者と共に、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう心がけている。 BGMをかけ、雰囲気作りに努めている。 椅子等を工夫して食環境整備に努めている。	
			(外部評価) 献立は、利用者のお好きなメニューを採り入れて、職員が1週間分ずつ順番に立てておられる。調査訪問時の昼食は、事業所の畑で採れたさつまいもが入った「さつまいもご飯」が食卓に上っていた。職員は、「畑で採れたさつまいもですよ」と利用者へ伝えると、「小さい頃、お母さんがよく作ってくれた」等、昔を懐かしむ方もおられた。調査訪問時には、柿が食後のデザートに出されてあり、利用者の噛む力や飲み込みの状態等に合わせて、個々が食べやすいように切っておられた。職員は、利用者とテーブルをともにして、見守りや介助をしながら一緒に同じものを食べておられた。食後は、職員が洗った食器を拭く利用者の様子が見られた。週に1度、朝食の主食はパンになっており、ごはんを好む利用者は、ごはんを食べられるように用意されている。誕生日には、ご本人のお好きなメニューでお祝いされており、鯛めしや赤飯、お寿司を希望する方が多いようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考慮したメニュー作りをしている。 一人ひとりの体調と摂取量を把握し、食事の形状・量・内容・時間・場所など個別支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの研修を受講。 その必要性を認識し、本人の力に応じた口腔ケアに取り組んでいる。 食前の口腔体操やお茶ゼリー等予防にも努めている。 必要に応じローリングブラシやクリーナーを使用している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、時間や習慣を把握。トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット、布パンツ、失禁パンツ類も本人に合わせて検討している。	
			(外部評価) 入居時、紙オムツを使用されていた方も、紙パンツに替えてトイレで排泄できるよう支援されている。夜間ポータブルトイレを使用する方は、ベッドサイドに鈴を用意されており、利用者は、必要時に職員を呼ぶようになっている。夜間のみ、尿器をご自分で使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) お茶ゼリーなど食材の工夫や健康体操、散歩など運動によって自然排便ができるよう心がけている。排便の困難な時は処方された下剤(内服薬・座薬)にて調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には一日おきであるが本人の体調・要望にて柔軟に対応している。 入浴を拒む方には声かけや対応を工夫している。 ゆっくりと話しながら入浴を楽しめるよう工夫している。	
			(外部評価) 一日おきに入浴するようになっている。午前・午後と入浴できるようになっており、利用者からの、「一番風呂がいい」「最後がいい」等の希望をお聞きしながら支援されている。車いすを利用されている方は、リフトを使って浴槽で温まれるよう支援されている。入浴後は化粧水や保湿剤を使うことができるよう、事業所で用意されていた。奥道後に出かけられた際には、外の景色を眺めながら足湯を楽しまれ、利用者は喜ばれたようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促すことにより生活リズムを整えるよう努めている。 一人ひとりの生活習慣を理解し、環境作りに努めている。 体調に応じ、適切な休憩がとれるよう配慮している。 寝付けないときには添い寝やおしゃべり等配慮している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを使用している。 服薬時には本人に手渡し、確認、必要に応じ介助している。 症状の変化を詳細に記録し、医療機関とも連携をとるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮して貰えるよう声かけし、感謝の言葉を伝えるようにしている。 買い物やドライブ、催し事、年中行事など気晴らしや楽しみ事を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望(買い物など)に添って外出できるよう支援している。 季節を感じられるよう折々の催しや行事に参加、家族やボランティアの方の協力を得て日帰りの外出などを楽しまれたりしている。	
			(外部評価) 近所の方の畑に咲く、ばらの花を見に行かれたり、希望があれば、洋服を買いに出かけたりされている。道の駅までドライブして、海の景色を眺めたり、アイスクリームを食べて帰ることもある。最近、近くにしたこ焼き屋がオープンして、おやつに買いに行かれることもある。季節の花を見にドライブされたり、4月のお花見には、ご家族にも案内して、一緒に楽しめるよう取り組まれた。9月に奥道後の昼食バイキングに出かけて利用者が喜ばれたことから、11月の菊花展に行く際にも、昼食バイキングを楽しめるように計画をされている。体調から外出の難しい方は、玄関先や庭に出て、足だけでも日光浴できるように支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者には少額を手元に持ち、要望に応じて職員と買い物に出かけたり購入してきたりする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時にはいつでも電話や手紙で連絡をとれるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節を感じさせる花や絵、置物を飾ったり自然の風を取り入れ、季節を肌で感じることができるよう工夫している。利用者から台所が見えるため生活感を感じることができる。</p> <p>(外部評価) 2階への階段の壁には、利用者一人ひとりの笑顔の写真を額に入れて飾っておられる。又、毎年、広島県熊野町で開催される「ふれあい書道展」に利用者は出展されており、入賞時の賞状も額に入れて飾っておられた。調査訪問時には、居間で、大きなトランプで職員と一緒に「七並べ」を楽しまれたり、紙に書かれた歌詞を見ながら歌を歌う利用者の様子がうかがえた。敷地内に畑があり、夏は、なすやピーマン、きゅうりやゴーヤ等を育てておられ、利用者は職員と一緒に収穫を楽しまれたようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) サンルームに椅子やソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。ホールでの座位置もほぼ決まっており、居心地のよい空間を作っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族の写真や趣味の道具などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室の壁には、ご家族の写真や、誕生日に職員からプレゼントされた写真入りのメッセージカード・職員と一緒にご自宅へ戻り、家や庭の様子を撮った写真、又、入居時から一年毎に撮った利用者の写真に日付を入れて壁に飾っておられた。自作の俳句の短冊を飾っておられる方もおられる。ほとんどの方がテレビを持ち込まれており、夕食が終わると、居室に戻り、寝巻きに着替えて、好きなテレビを見ながら休まれる方が多いようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 移動バーや手すり、家具等一人ひとりに応じた設置をすることで安全かつ自立した生活ができるよう工夫している。</p>	